

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1072700493		
法人名	たくみ株式会社		
事業所名	グループホーム ベルジ川場たやの家		
所在地	群馬県利根郡川場村大字生品1823-1		
自己評価作成日	平成27年6月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号
訪問調査日	平成27年7月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『痛くなく、辛くなく、苦しくない日常生活を送ること』を理念とし、家庭的な日常生活を送っていただき、その中で自分の好きなことや食べたい物・行きたい所など個別で対応していくことで、たやの家が居心地良く「自分の家である」と思って頂けるように努めています。特に『食』に力を入れ、今年度は施設の畑を活用し野菜などを育てており、育てる楽しさ・収穫する喜び・調理して皆で食べる楽しさを入居者の皆様と共有できるよう活動しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

訪問者へのあいさつや心配り、居室での楽な服装で思い思いにくつろいでいる様子から、利用者が日々自然に共用空間と各居室という公私の区別をつけながら過ごしている様子がうかがえる。建物横の畑やベランダに置かれたプランターで、利用者と職員が旬の野菜作りに励み、収穫された野菜を使ってメニューに活かしている。さらに外食会や昼食会・手作りおやつやジュースなども取り入れ、個別の好みと健康にも配慮しながら『食を通した楽しみ』に力を入れている。地元の幼稚園児とは卒園時に利用者が手作りのコマをプレゼントし、幼稚園児から似顔絵を描いてもらうといった情の通った交流が続いている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念5項目を掲げて会議や日々の業務の関わりの中で確認し合い、共有を図っている。	申し送りや会議で理念を確認している。新入職員にはオリエンテーションで説明している。利用者の支援において、先を読んだ対応ができるよう円滑な報告・連絡・相談に努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の祭りや文化祭・老人会主催行事への参加を継続して行っており、交流を図っている。	地域行事や住民との交流も続いている。認知症ケアの拠点となりうるホーム独自の活動やアピールを今後は模索していきたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	食事会など施設行事に老人会の方々を招き、認知症の方の理解や支援の方法を会話等を通じて知っていただく機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行き、事業者から活動内容の報告を行って参加者から意見や要望などを聴いている。そこでの意見や要望等は運営に反映させるようにしている。	2か月に1度、行政担当者や家族も参加して開催している。参加者からの意見・提案の他に、情報交換がされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	議事録や書類を窓口に届けに行くなど、直接市町村担当者とコンタクトを取り、連携が図れるよう取り組んでいる。	直接行政窓口に出向く機会を大事にしている。後見人制度等、個別の相談・意見交換も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員への周知徹底を図り、取り組みを行っている。建物の構造上2階建てのため入口ドアの施錠をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について、外部・内部研修に参加し学習している。『見守りによる自由な出入りが利用者の安心につながる』という考え方を共有し、扉の開錠に努めている。開錠時には合図として入口に丸椅子を置く工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の徹底については、研修参加等により正しく理解しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護・後見人制度の研修に役職者が参加し、施設内研修として活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前や入居時に契約の説明を行い、納得していただいた後に契約していただいております。内容に変更があった場合には文章にて同意を頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加していただき、意見や要望等を伺って運営に反映させるようにしています。	全職員ですべての利用者の言葉や要求を受け止め記録に残し情報を共有して支援している。家族の面会時や担当者会議の際には、近況報告をし意見(宿泊・看取り・財産管理等)を確認している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議にて意見を出し合い、運営に反映させている。	ウィークリー会議で意見交換をしている。職員からは状況に応じた働き方や身分保障などの相談も出される。管理者は、些細なことでも報告・連絡・相談しあえる職場の雰囲気づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設内外の研修への参加や資格取得に向けた支援など意欲の向上に繋げるための環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの得意とするところや、良い面を見つけ、役割を持って仕事をして頂き、向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設への見学研修に参加させていただいたり、その他研修にて知識を深めサービスの向上に繋げられるよう取り組みを行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	第一印象を大切にし、ご本人からの想いをよくお聞きしたうえで職員間で情報を共有し良好な関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会や連絡にて日々の様子や変化など報告や相談をさせていただき、話しやすい環境づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の際に、ご本人やご家族からのお話や関係者からの情報を把握しておくことで方向性を示し柔軟な対応ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩から、豊富な知識や経験を学ばせて頂くという立場に職員は立って生活のあらゆる場面で力が発揮できるような支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や外泊など、ご家族様やご本人様と話し合い双方が良い方法を支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や来所していただき、交流の機会を設けることで関係が途切れないよう支援しています。	入居時から、面会をはじめ外出など、利用者との関わりを継続してもらえるよう働きかけている。手紙のやり取りや、趣味(カラオケや裁縫・家事など)も続けられるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペース(ホール)へお誘いするなど、関わる時をつくって職員が間に入るなど配慮することで孤立しない環境づくりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、介護に関するご相談や支援ができる関係性を維持し対応させていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向をお聞きしたり、ご家族様にも協力して頂くことで少しでもご本人の想いに近づけられるよう、日々検討しています。	全職員がすべての利用者の思いに耳を傾け、希望を明確にし支援している。外出や外泊の希望も家族に伝え、相談しながらお願いする事もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族・ケアマネージャーからの情報を参考に把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録等から生活の様子や問題点など現状の把握に努め、情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングや担当者会議にて、現状の把握と今後の支援内容についてご意見を伺っている。意見が反映された介護計画が作成できるように努めている。	モニタリングを毎月行い、介護計画は3カ月ごとに見直しをしている。利用者の意見は日常的に受け止め、家族の意見は面会時や担当者会議で確認し、計画に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録には実施した事だけではなく、どのようなことを言われていたのか？に焦点を当てて記録に残すようにしている。発言の内容や対応から変化への気づきに繋げ、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて、後見人制度などのサービス利用についての相談・支援ができるよう取り組んでいきたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の観光地へ出かけたりや行事への参加を継続することで楽しみが増えたり、交流が図れるなど生活にハリが持てるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族と連携を図り、安心して受診して頂けるよう支援を行っている。	入居時にかかりつけ医・協力医の受診の説明をし、選択してもらっている。受診の際には家族の協力もお願いしているがホームでも支援している。協力医が月2回往診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的なバイタルチェックの把握や変化は看護師をはじめ、他職員も把握できるよう情報の共有を図っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に面会を行い、利用者様の状態の把握に努めています。また、病院関係者との情報交換を行うことで早期退院に繋げられるよう		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の方針を契約時に説明し、状態の変化に応じて病院・ご家族・施設との話し合いの場を設け意志の確認を行っている。また面会や会議の際にもお考えをお聞きしている。	重要事項説明書に方針を明示している。家族とはその都度希望を確認し話し合っている。現状では関係機関との体制面で課題もあり、事例はないが、法人の研修には参加し、学習を重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修への参加・マニュアルの確認等で職員全員が周知できるよう取り組みを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練の実施と3日程度の食料の備蓄をしている。緊急時を想定した非常食の提供も行っており、対応の確認も行っている。近隣施設との協力関係も築き、応援あり。	年2回の総合訓練(昼夜想定・1回は消防署立ち会い)を実施。階段を使ったり、戸外に避難する練習はしている。備蓄(白米・水等)は3日分。ホーム独自の防災の日に備蓄品で食事を提供し、期限や物品を見直している。	自主訓練の際には、様々な災害や条件を設定し、避難方法や経路・防火扉の閉鎖訓練等も取り入れ、記録も残し、有意義な検討材料にしていきたいと思います。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に力を入れ、言葉使いや言葉かけ・態度など人格を尊重した対応ができるよう職員全員に周知し取り組んでいる。	声掛けや電話対応など接遇面での取り組みをスローガンでも掲げ、常に重視している。個人情報の取り扱いの入職時に契約書を交わしている。同性介護の確認に一声かけるよう努めていきたい。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の献立や出かけたい外出先など、暮らしの中でひとり一人が希望を出したり選んだりすることができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	『生活の中心は利用者様である』という事を考えて、利用者様がご自分のペースで暮らせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の趣味趣向に合わせた選択ができるよう支援を行い、その人らしさを大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りでうどんを作ったり、畑で出来た野菜を食材に取り入れたり、季節に合わせた献立にしたりと準備から片付けまで関わることで、食事が楽しいと思って頂けるよう支援している。	法人方針で1名が検食。手作りおやつ・ホームで採れた野菜・手打ちうどん等も取り入れ、『食の楽しみ』を大事にしている。午後のお茶は数種類の中から選んでもらっている。	選択場面では、視覚で判断できるようメニューを用意してはどうか。職員も一緒にお茶を楽しみ、家庭的なくつろいだ時間を過ごしていただきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の記録があり個々の状況を理解している好みに応じて飲み物を提供し、召し上がって頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に自立されている方には声かけを、介助が必要な方にはできる範囲で行って頂き、残りは磨き残しを確認して援助を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的な声かけ・誘導を行うほか、日常生活の中での行動を観察してさり気ない排泄介助を行っております。	排泄は各居室で支援している。チェック表で排便の確認をしている。声を掛ける時には、タイミングや声の大きさにも気をつけている。排泄用品の管理にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録を記入し、便秘の予防の為運動・マッサージ・食事や水分の摂取など、個人の状況に応じた予防を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個人のご希望や身体状況に応じて対応させていただいております。	1日おきに入浴する利用者が多いが、毎日意向は確認している。温度や時間も要望に応じている。シャワー浴や着替え・陰部洗浄など随時支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明の明るさや室温など、個人の好みや室温など快適な環境で休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の説明と共に薬局からの処方箋などの情報を把握し、服薬の状況を理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で役割を持って頂き、台所仕事などの家事やカラオケ・畑作業などおひとりお一人の生活スタイルに合った支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	行きたい所の希望を聞き取り、達成できるようにいっしょに計画を立てながら目標にして支援しています。	散歩に出かけたり、畑に出て野菜の世話や収穫も楽しんでいる。庭先や周辺の広場に出かけ昼食を楽しむ事もある。外食やドライブは数名で出かけている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物行事や外出時に見守りのもと、お金が使える様支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月のお便りにコメントを書いて頂いたり、ご希望に応じて手紙や電話でのやり取りができるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常生活の中で、お茶入れやリンゴの皮むきなど、できることをして頂いたり季節のお花を活けて季節感を味わって頂いております。	清掃も行きとどいた館内は気になる臭いもなく清潔である。自然に恵まれた環境のため、季節の移ろいも感じられる。四季折々の花を飾って楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペース(ホール)は自由に行き来できます。利用者様同士でお話をされたり、レクリエーション活動の場としてご利用されております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、ご本人が使用されていたものや馴染みの有るものを持ってきていただくなど、落ち着いて生活が送れるように環境づくりに配慮しています。	使い慣れたものがあるというだけではなく、『私』としての気づかいのない過ごし方をしている様子がうかがえる。本に囲まれた生活、気楽な装いができる居室が居心地の良さを現している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様ひとり一人に役割があり、楽しみながら職員の見守りのもと、日々の生活を送っていただいております。		